

【おおい町】 校務DX計画

1. 趣旨

おおい町では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、当町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2. おおい町における課題と取組

文部科学省が公表する「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（確定値）において、本町の達成している部分、課題となる部分を踏まえて以下の項目について、次のように取り組む。

(1). 家庭と学校とのデジタル化について

児童生徒の欠席等の連絡や配布物については高水準でデジタル化が図られている。しかし、保護者からの提出資料のデジタル化や学校説明会などのオンライン形式の導入をしている学校は少数であることから、実態に応じて推進できるように実際に取り組んでいる学校との情報共有を行うよう助言を行うとともに、どこに課題があるのかを研究し、より利便の向上を図ることを目指す。

(2). 校内連絡のデジタル化について

各校とも職員会議等の資料をクラウド上で共有し、完全ペーパーレス化を達成している。しかし、教員向けの校内アンケートなどでは完全デジタル化が未達の状況である。限られた資源や費用の縮減、時間の削減などデジタル化による効果を実感しやすい点であることから、すでに取り入れている学校の事例紹介を用いながら一層の推進を図る。

また、教員間や町教育委員会との連絡にはコミュニケーションツールを活用し、連絡を円滑に行うよう実施しているところであるが、職員会議のオンライン化や研修のオンデマンド視聴などについても一層の推進を図る。

(3). 校務D X環境の構築

県下統一の校務支援システムを導入することにより、他市町から異動された場合でも使い慣れたシステムを継続して使用できるため、業務の負担軽減が図られているが、本町では、校務系と学習系サーバを分離しているために、円滑なデータ授受が困難な環境で学校からのそのような声が少なくない状況にある。今後、1台端末で校務系と学習系ネットワークを切り替えて利用できるゼロトラスト化の検討を進めていく。また、学齢簿の活用など、校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃に取り組む。

(4). F A X ・押印の原則廃止

F A Xでの送付、押印を求めている関係機関や事業者が現在もある中で、一方的な見直しを行うと混乱や弊害が出る恐れがあることから関係機関等の意向を丁寧に聞き取りした上で、F A Xの方が非効率な場合を除きF A Xの原則廃止に向けて、関係機関等に見直しの依頼をする等の働きかけを行っていく。

また、押印については教育委員会内で押印を求めている書類もある中で、公印省略で取り扱うルールの見直しを図っていく。